

## 個性豊かな研究開発で大きく羽ばたこう

接着剤研究所  
森 義和

最近の技術革新は目ざましいものがある。現代の技術革新を推進してきた背景には、新規計測技術の登場とその高性能化及び情報ネットワークの発達がある。研究開発においては、まず合理的な計測技術をピックアップし、それを独自の評価技術にまで高め、研究者のアイデアを迅速に検証できる会社が競争に打ち勝つといわれている。しかし、すばらしいアイデアが出るかどうかは、研究者個人の創造性の発揮によるところが大きい。創造性を思う存分発揮してもらうためには、会社も自分自身も個性をうまく活用することである。

### 1. 企業風土と個性の大切さ

井上靖の短編小説に『補陀落渡海記』というのがあり、今も印象に残っている。誰かが始めたことが認知されると、いつの間にか慣習や風土になる場合が多い。その時点では感動を与えるほどのものであっても、時代の変化に対応していかなければ、足かせになる。組織の中に尊敬を集める人物が出現すると、無意識のうちになんかそういう人物を物差しにして他人を評価してしまいがちである。もし、似たような人間だけで組織が形成されたらどんなことになるか。これでは、輝かしい研究開発はできないし、組織も会社も時代に取り残され、大きく発展することはできない。

### 2. 個性に気づき伸ばす

目標とする人物を持つことは大事なことであるが、その人の能力をそっくり身に付けることはできない。その人を目標にして頑張っても、一生到達しないのでは自分自身もつまらないし浮かばれない。人間はどんな小さなことであっても、感謝されたり頼りにされることで輝き始める。自分の存在価値を実感できてこそ、モチベーションは上がり、大きな成果を生み出すことができる。V9当時の巨人には、森という名捕手がいた。彼は自分の打撃ではアピールできないが、捕手として超一流になりチームに貢献しようと考えた。そして、打者ひとりひとりのデータを分析して配球を組み立てる画期的な方法を考案し、見事に個性を開花させV9に大きく貢献した。個性を発揮できる自分を実現するにはどうしたらいいだろうか。それは、まず自分自身を良く知ることである。自分自身を良く知るには、いろいろな考えを持った人とコミュニケーションすることである。それも面と向かって相手の息づかいや表情を感じながら会話し議論することである。コミュニケーションを通じて、自分自身の強みや弱みに気づき、自分に対する理解が深まるのである。その上で、研究開発を通じて、自分らしさを発揮できるものを見つけ伸ばしていくことである。一旦見つけたら、とことん掘り下げ、社外でも通用するだけの強い力を付けることである。この過程で、さまざまな分野における一流の人との人脈ができる。分野が違うことで課題に突き当たったら、人脈を利用して頭脳を借りればいい。道を極めた人は、さまざまな分野の情報も的確に判断し、テーマ解決に利用することで、より質の高い成果を得ることができるのである。

### 3. 若さが会社を発展させるきっかけになる

若いからといって、遠慮したり、怖気づくことはない。若さという新鮮なエネルギーが、組織を大きく変革へと導くことが多い。若い猿が芋を海岸で洗うことを始めたように、若者が新しいことを切り開いていくものである。若いということは知識や経験も少ないが、だからといって先輩達に太刀打ちできないわけではない。経験や老練な知恵には、新しい考え方、新しい知識、新しいスキルで挑戦し応戦すればいい。たゆまない挑戦が組織や会社を進化させるのである。

### 4. 自信と誇りを持ってチャレンジしよう

ある尺度で自分を見たときに、弱者であると感じることがあるのではないだろうか。しかし、強いものだけがいつも勝利を得るとは限らない。弱者には弱者しか考えないことや出来ないことがあるはずだ。他人と自分を比較する前に、自分自身の個性に誇りと自信を持って行動しよう。自分にはできると信じて突き進んでいけば、必ず勝利の女神は微笑んでくれることをお伝えして、巻頭言としたい。